

今日におけるEU（ヨーロッパ連合）と日本の経済的関係

経済的関係 <貿易と投資> となると、日本とEUは見知らぬもの同士である。両国は、世界で規模の大きな、かつ最も重要な経済国であるにもかかわらず、日本とEUの間には、驚く程わずかなつながりしかない。EUは自分達の国々から日本が入らないようにして、日本には興味がほとんど無い国である。日本の優先 貿易と政治 はアジアやアメリカのような国へとなっている。

日本のEUとの経済的関係に対する意見は、EUはEU諸国にしか開放的ではないから、EUはもっと世界的に開放するべきであるというものである。EUも日本の意見と同じである。EUの日本との経済的関係に対する意見は、日本は閉鎖的であるから、日本はもっと開放的になるべきであるというものである。このような貿易の関係を見ると、日本とEUはお互いに思っていることは同じである。

日本とEUとの間に貿易摩擦が起きている原因は、EUは日本との貿易において大きな貿易赤字となっているからである。1993年から1998年の間に、日本のEUに対する輸入と輸出は増加していった。それにもかかわらず、日本の貿易は主にアメリカとアジアに対するものであった。そして、EUの貿易は主にヨーロッパとアメリカに対するものであった。だから、日本とEUのつながりは、日本とUSまたはUSとヨーロッパに比べると、比較的弱いつながりであると見なされている。

日本とEUがお互いに弱い関連性しか持っていない理由は、お互いの経済への投資が比較的少ない量だからである。日本のすべての諸外国に対する直接投資のうち、EUに対するものはたったの15%しかない。日本のヨーロッパへの投資のほとんどは、イギリス（70%）とオランダ（15%）である。また、両国のアメリカへの投資と比較しても、EUは日本にはほんのわずかしが投資していない。

したがって、両国が世界の中でも大きな経済国であるにもかかわらず、日本とEUの間には比較的少ない貿易しか行われていない。それゆえ、今日におけるEUと日本の経済的関係性は比較的弱いということが分かる。